

○新樹会演奏会 五月二十七日夜東京日本橋一証券ホール(主催鶴田錦史氏) 重橋一末八重子。絃中谷護水 白虎隊一半田綾子 城山一吉川良和、山口修 扇の的、小島櫻舟 羅生門一榊本旭波 湖水葉切、板倉穉水 五条橋一林穉豊 不倒一平山万佐子 景清一山下晴楓 石田三成一金子旭昭、絃山元旭錦

○各流派合同演奏大会 六月一日昼京都東山区安井金比羅宮会館(主催京都琵琶協会) 金剛石一平井衣子 五条橋一柄尾梁 赤垣源蔵一渡辺寿栄 天の羽衣一モニカ一ペー、本能寺一田華旭順、清水旭真、山崎旭栄、広瀬旭紫 秋風故郷の山一森田長三郎 粟津の露一山崎旭栄 湖水渡一小林旭光 若き敦盛一戸倉旭嶺 川中島一井上稻水 高松城一田中鷗水 宗清一古谷寛水 堅田落一若宮旭登 羅生門一木村維水 白虎隊一大阪山之内兼光 西郷隆盛一矢吹華水 姫ゆりの塔一福井吉野洲水 小松の操一静岡森鶴堂 新撰組一中島旭穂 父乃木将軍一植村稔水 桶狭間一札幌横山岳玲安宅の関一梅原旭濤 光秀の最期(上)一伊吹正陽 同(下)一平井春嶺

○一門会演奏会 六月一日昼東京本郷香風寮(主催輝水会本部) 嵯峨野一元木静泉 菅公一菰原錦灼 本能寺一竹内錦黎 夢一浪江錦正 紅葉狩一吉川錦党 羽衣一志田錦禅 鉢の木一伊藤錦貴 静一阿部錦統 龍の口一辺見錦舟 知己一山崎光水 掛合川中島一杉本淳水、国枝映水、戸谷曜水 須磨の春一窪田錦晃 肩をもむ一都錦穂 城山一古田耕水 乃木静子夫人一仲川秀邦 朝顔一吾妻江風 西郷隆盛一友吉澄水 ずらん散華一前田洲月 羅生門一山口速水 北の庄一藤巻旭鳴 掛合小袖曾我一小沢錦

○築前琵琶大会 六月七日昼岐阜日の丸会館ホール(主催岐阜旭会) 衣川一坪内旭鳳 柳の精一岡崎加藤旭春、新実旭昭、杉浦旭秋 関ヶ原一林旭寛、高木旭昭、西川旭水、絃旭弘 月に惚ぶ一松原旭翠 村上喜剣一兒玉旭翠 扇の的一保坂旭光 愁風大学門一川尻旭鳳、絃旭照 茶臼山一高木旭昭 壺坂寺一林旭寛、絃旭弘 羅生門一新大阪榊本旭波、絃松岡旭岡 吉野山懐古一名古屋湯川旭鐘 五条橋一大阪樋口旭総 舞扇鶴ヶ岡一明石那波旭昭、絃柴田旭堂 故郷山一熊手旭辰、絃旭風 秋風 水渡一東大阪高千穂旭祝、絃旭風 湖野旭陽、絃旭堂 忠度一福山川崎旭静、絃旭岡 未練西行一田中旭照、絃旭文、旭辰 川中島一大阪木庭旭山 堅田落一神戸辻本旭鳳 安宅の関一京都梅原旭濤、絃旭岡 青の洞門一神戸松岡旭文 誉の水馬一神戸伊藤旭暢 那須与市一福岡中村旭園 大物保一坂田旭弘 二〇三高地一小倉野河旭保、絃旭文、旭辰、旭総、旭山、旭園、旭濤、旭堂、旭暢、舞踊、琴、尺八入 外に詩吟詩舞九題

○創立二十周年記念薩摩琵琶演奏大会 六月八日昼大阪天王寺区市立婦人会館(主催四明会) 母の教一平井衣子 春日野一伊勢谷安江 月華一有馬南城 老蘇の森一杉本治作 武蔵野一杉秀夫、絃天芳 川中島一香川錦風 東京オリピック回顧一山之内兼光 水天門一平井春嶺 足柄山一山田岳叢 白虎隊一小野鶴彦 衣川一京都市島屋旭穂 広瀬中佐一島津正 桶狭間一名古屋

橋谷岳賜 薄陽江一東京仲川秀邦 桜狩一横浜大塚岳峻 墨島の誉一岡部錦蝶 本能寺(上)一東京栗原雨竹 同(下)一東京吉成登城 彰義隊一札幌横山岳玲 屋島回顧一西宮三浦蓮水 吉野落(上)一東京辻靖剛 同(下)一神戸平木天因 城山一鹿見島小畑鶴峯 湖水葉切一大阪藤原英水 形見の桜(上)一長谷川博章 常陸丸一伊吹正陽 南洲と海舟の会見一市来芦村 新羅三郎一栗本天芳

☆☆☆☆☆

毎年同じような事を云って気が引けるが今年も春から新緑の候にかけ十何度も上るかと思えば六月月上旬には裕の重ね着という冷気に震え上ったり何ともはや不順なことである。でもやがて本号がお手許に届く頃には梅雨も本格的となり卯の花匂う夏の季節も程遠からぬことと思ふ。本紙創刊十五周年の御祝詞や敬励のお言葉を各地から沢山頂戴して筆者は感激の極に達している。が、この全部を六、七両月号に掲載する事が出来ず本号に相済みぬ次才、不本意ながらあと八月号に載せさせて頂く、誠に申訳ないがどうか悪からずお許し下さるよう。八月号は例年の通り盛夏特別号として豊富な記事で全紙を埋す皆様に目見えすべく今から想をねわっている。同時に暑中交礼の欄を増員して全国同好者相互の旧交を温めて貰うよう準備を進めている、奮って御協賛下さい。

昭和四十四年七月一日発行(非売品)

編集者 植村 稔 水

発行所 京都市北区衣笠西馬場町二九

〒603 和歌山才一ビル 二〇一〇号

電話(四〇二)八三六六内線一〇一番

琵琶 京 絃

才一八一号 京 絃 社



近頃憶うこと(上)

長 浜 南 城 (遺稿)

弾法は大体年輪に左右される向が多いが、歌は年輪に左右されない。生れつき美声もあれば、声量、声質、音調もあれば一本調子もある。声量、声質、音調が歌の基本となつて、良き教師の歌風が之に反映するのであるから、弾法技術と歌風技術とは同列に進むものではなく、何れかに技術上の優劣があり偏重が伺われる。

良い歌をきき、良い琵琶をきく以外に仲々向上の方途はないから、名人の多かつた大正年間には育成された人々が、個性ゆたかな弾風歌風を身につけられたのは、周辺が優秀であつた影響によるものである。

例えば鹿兒島同好会の演奏会に常時出演しておれば、自然琵琶らしい正調に接近し、東京正絃会や大阪四明会に交つて演奏している内に、薩調に接近してゆくのは自然であつて周辺の歌風と弾法が無形の指示となるからである。最近各派合同の会が開催されているが、お互いの長所をとり、短所を修正する上に極

めて適切な企画であると思われる。どんなに歌が上手な人でも、琵琶歌では仲々百点はとれない。それ程琵琶歌はむづかしいものと最近特に憶う。

嘗て恩師木佐貫先生の麻布の二階で集りがあつた時、某一流の先生が端歌や浪曲を得意に歌われたが、傍に座っていられた須田龍翁先生が、それ程上手に歌えるのにもっと琵琶歌は上手に歌えないものかと批判された事を憶い出す。

他の歌に比べて琵琶歌のコツは、語尾につきまとい短い節であり、その短かさの中に独自の情緒が潜むのであるから、一節一節のこの短かい情緒を丹念に表現する事が技巧的に困難であるが、同様に弾法であつても、最後の余韻に絃の魅力が潜むのであるから、絃声や撥の強弱やタイミングが課題となるので、歌の語尾と同様、絃の最終的な切目の余韻が問題になり、研究の目標となると思われる。

野球の名投手に引例すれば、一本調子の強球

でなく柔らかな変化球に歌も工夫して堅実な練習を続けたいものである。

最近の歌謡曲のスター等は、昔のような基礎訓練の期間を経ている人達は少く、その生命も短かく、その力も不十分であるのは致し方のない事である。

切抜帳から(四〇)

平井春嶺

○終戦の真相(一八)

十一、八月十四日の御前会議の経過と天皇陛下の御仁慈(2)

この議論については私(迫水久常氏以下同じ)はこつこつ意見を申ししたのであります。大体日本の国柄に於ては国民の心は大御心に帰一するといふのであるが、歴代天皇のお心持は常に国民の心を以て、心とされるという思召してはなから、即ち日本の国柄では国民の意志と天皇の御意志とは対立する二つのものではない、二つであり乍ら二つではなく一つである、即ち表裏一体であるが、外国では国王と人民が対立して来たのであるからこれを二つに見ているのである、従つてこのことを外国人に理解させるのについては、先年不戦条約について「国民の名に於て」といふ字が問題になつた時のように、到底困難であるからこれを我々は天皇の御意志によつてと読んで差支えないのではないかと申しました。問題は軍部であります。総理はこの間の事情を陛下に御報告申し上げました所、陛下

は先方に聞くのなら聞いてもよいが、交渉の糸を切つて了わないうようにとのお思召してあります。

この間米側から盛んに日本の回答の遅延を責めて参ります。もう一度先方の意向を問合せたのでは、到底交渉の糸が切れてしまうことは明かでありませぬ。

よって私は総理にもう一度陛下のお力におすがりする外はないと申し上げました。しかも両総長の同意を得られない限り、御前会議を開く途はありませぬ。畏れ多いことながら陛下よりお召しを願うことにしたのであります。

総理は十四日早朝参内、拝謁して陛下の方から十六人の大臣全部、枢密院議長、陸海軍の総長をお召しを願って、おさとしを頂くことにお願ひ申し上げお許しを受けました。

十四日午前十一時一同はお召しによって参内、先般の御前会議の室に集まって陛下の御出席を待ちました。私も出席致しました。今度は全部で二十三人であります。

総理より経過の概要を説明したあと、陸軍大臣、参謀総長、軍令部総長からそれぞれ先方の回答では国体護持について心配である、しかし先方にもう一度たしかめても満足な回答は得られないであろうから、このまま戦争を継続すべきであるという意見を声涙共に下して申し上げました。

陛下は総理の方に向つて外に発言するものはないかという意味の御合図があつて後「皆

のものに意見がなければ自分が意見をいわう」と前提せられお言葉がありました。

「自分の意見は先日申したのと変りはない」と先方の回答もあれで満足してよいと思つたと仰せられました。

号泣の聲が起りました。

そして陛下は玉砕を以つて君国に殉せんとする国民の心持はよくわかるが、ここで戦争をやめる外は日本を維持するの道はないといふことを、先日の御前会議と同じように懇々とおさとしになり、更に又皇軍將兵戦死者、戦傷者、遺族及び国民全般に御仁愛のお言葉があり、しばしば御頬を純白の手袋をはめたお手にて拭われました。

一同の感激はその極であります。椅子に腰かけているのに堪えず、床にひざまずいて泣いてゐる人もありました。

しかし私共を現実の敗戦の悲しみを超えて、寧ろ歓喜にひたされたものはこの次に仰せられた陛下のお言葉で御座居ます。

陛下は「こうして戦争をやめるのであるが、これから日本は再建しなければならぬ。それはむづかしいことであり、時間も長くかかることであるが、それには国民が皆一つの家の者の心持になつて努力すれば必ず出来るであろう。自分も国民と共に努力する。」と仰せられました。

この言葉を拝したときの心持は高天原に於て、天照大神が天岩戸をお開きになつてお出ましになつたときのそれをお迎え申した、八

百万神のお心持もかくやと、しのべるような気が致しました。尊きを知つて只高く仰いでいた陛下はやはり国民と共にある陛下でありました。私はここに新日本建設の黎明を感じたのであります。陛下は我等国民を御信頼なさつて、我等に日本再建を御命じになつたのであります。

しかし陛下のお言葉の中には全く他日の復讐を期するといふお心持はないのであります。廣大無辺な御仁慈は国民のみならず広く、人類の安心平和幸福を希い給ひ、又将来日本が国際社会の一員として世界平和の確立に大いに寄与するため、新しき日本が新しき民主主義の基礎の上に、道義の香り高き文化国家を再建することを希ひ給うたのであります。

陛下は更にお言葉をおつづけになり一般の国民には、ラジオを通じて親らさとしてもよいと仰せられ、又内閣に於ては速かに終戦に関する詔勅の草案を作つて、手許に差し出すようにとのお言葉がございました。ここに御前会議を終り閣僚は内閣に帰つて終戦の議を決定し更に終戦の御詔勅の草案を審議致しました。(以下次号)

次号は終戦の御詔勅とそれをめぐる一部軍人の策動

新撰組盛衰記(中)

辻 旭 城

これは慶長十三年(一六〇八年)に秀頼が方広寺の大仏を再建する時に、物資輸送のため運河として掘つたもので、現在の高瀬川である。新撰組を偲んでの高瀬川添いの散歩は、五条あたりから京阪三条に向つて歩くのがよい。その三条小橋のたもとに「佐々木旅館」がある。維新史最大のテロ、池田屋夜襲はここが舞台となり、志士吉田稔麿(長州)、宮部鼎蔵(肥後)ら七人が斬死にしている。「低かつた天井や壁、床の間の柱にあつた刀痕、子供のときの記憶はまだはっきりしています。志士が縊つて死んだという暗い階段もありました。」と語るのは主人の佐々木彌一郎さんで、彌一郎さんのお母さんが池田屋の建物を買い取り、その後改築して今は鉄筋のモダンな建物になっているが、玄関口に当時の惨劇を伝える石碑が立っている。

このあと近藤勇が養父に送つた手紙によると「斬合いは二時間あまり、討入つた新撰組隊士五人のうち、刀が無事だったのは私の虎徹」だけで、その外は刀を折られたり槍を切取られたり、折れた刀の刃は鋸のようになっていた。この夜襲には新撰組のほか会津、彦根藩士なども加わり、その戦果は召捕り二十三人、手負い四人、討取り七人で、幕府から新撰組へ論功行賞の特別賞金が届けられ、云わば新撰組の絶頂期であつた。斬合いはその後も続き、大阪石蔵屋の襲撃事件、京都三条大橋で刺札を取去らうとした土佐藩士ら八人との物凄死闘事件など、近

藤の独裁となつた新撰組の刀は、血を求めてやまなかつたのである。

然しながら転機は意外に早くやつて来た。鳥羽伏見の戦(一八六八年)に幕軍の先兵をつとめた新撰組は、薩長側の銃砲隊に正倒されて総崩れとなり、近藤勇の養子周平ら多くの隊士を一挙に失つた。薩長官軍の新兵器には、練磨した日本刀も刃が立たなかつた。

大阪に引上げたときは、人数は三分の一の五十人に減つていた。敗残の隊士は大阪天保山沖から幕府の軍艦で江戸に帰り、京洛での華やかさは僅か五年の夢であつた。(未完)

南城罪々

長浜南城氏を悼む

久木田みのる



琵琶人のお好きな曲目

編 集 部

今早も君が計を聞く悲しさよ 絃音絶えて 春雨霏々たり

倫敦に琵琶携けて留学の 長浜青年颯爽たり けむ(一九二四年頃ロンドン大学入學)

秩父の宮嘉し与えし山高帽 御前演奏"城山"の曲(サバイヒと放送局より全英に放送)

独特の悲壮哀調の至芸もて 南城の琵琶人を泣かしむ

壮麗にまた爽やかに物語る 琵琶音色に魅了されたり

数々の名曲成せり、乃木將軍、終戦回顧 "宮城道雄"等

いみじくも郷里川内に育成の いさを建てたり長浜学園(川内商工学校など)

君はまた敷島の道秀歌成す 「はる路」の 稚号ふさわしかりき

初夏のスイスの山の光る雪 また子ら思ふ 歌この短冊はも(久木田蔵する歌二首)

今はただ遺影おろがみ貴顕追ひ 朗詠名吟 思ひしのばむ

「ベルナ市を囲みて高き初夏の スイスの 山に雪光る見ゆ」 はる路

「けふ一日仕事に追はれ子らのこと 思はざりしがふと淋しかり」 はる路

京絃社に寄せられた各地演奏会のプログラムによって、一昨年と昨年の各一月号から十二月号「よもやま」欄に掲載の過去二ケ年間(一昨年の演奏会八十八回、昨年六十八回)から精細に拾い上げた曲目を統計にとつてみた。無論この外にも全国で演奏会が開かれていふから、この数字を以て決定的とは云えないが、大体の状況は知ることが出来、現代琵琶人はどんな曲目がお好きかという参考に「はなると思ふ。即ち薩摩系では白虎隊、本能寺、城山、龍の口、西郷隆盛等が圧倒的に多

く、筑前系では秋風故郷の山、若き教盛、羅生門、大物の浦、安宅などが一般の好む曲であるように思われる。

「薩摩」は原則として薩摩琵琶の楽器(錦を含む)を使って演奏する各流派、「筑前」は筑前琵琶の楽器を用いて演奏する各流派を含んでいるが、ここ二年間は薩摩系の演奏会が数に於て大であった。

(薩摩)

- 白虎隊4433 本能寺4323 城山3422 龍の口3315 西郷隆盛2720 茨木248 川中島2416 井伊大老235 湖水葉切2014 月下の陣1913 舟弁慶1810 重衡177 彰義隊1515 屋島の誓1511 常陸丸159 桜狩148 坂崎出羽守147 石童丸1318 新撰組1314 松の廊下133 吉野落129 敦盛1110 別れの盃119 山科の別れ115 小栗栖105 紅葉狩105 羅生門104 河内の宿103 羽衣103 静102 淨場江916 菅公914 戦艦大和912 録の木910 広瀬中佐97 金剛石94 恩讐の彼方へ93 乃木將軍810 木村重成88 曲垣平九郎86 勸進帳86 旅順開城711 橋大隊長75 桶狭間74 伊豆の

- 御難73 武蔵野68 吹雪の敵64 富樫の涙63 五条橋62 村上喜劇62 花吹雪61 俊寛511 蕨菜山56 黒田武士54 足柄山52 雪の進軍52 葉尼51 大楠公410 小松の操49 桜井の駅45 河川島44 父乃木將軍42 台湾入42 常盤御前40 道成寺35 吉野山懐古35 姫ゆりの塔33 物狂33 旅の芭蕉33 蔵流島33 小倉32 元冠32 大高源吾

盛夏特別号発行について

八月一日発行の本紙は例年の通り盛夏特別号とし、紙数を増して内容豊富の記事を掲載、併せて暑中交礼号として貴名を掲載させて頂きたいと存じます。

- 32 菊水の旗32 屋島回顧32 勿来の関32 野田の笛32 淀君32 露宮の歌31 安達ヶ原31 児島高徳31 一乗寺下り松31 時雨曾我31 耳なし芳一31 石田三成30 相馬主計兵曹30 光秀の最期25 七脚落25 送別24 平泉回顧24 形見の桜23 春日野23 九連城23 異国の丘22 うつぼ猿22 横笛22 宇

- 治川先陣22 夢22 楊貴妃21 さくら15 迷語もどき14 別れの国歌14 その日の東郷元師13 秋海棠13 忠度13 老蘇の森13 威海衛12 盛綱先陣12 石川啄木12 王昭君12 大石主税12 春の調12 飯盛山懐古06 天野屋利兵衛04 伊藤公03 噓八月十五日02 高松城02 二回16(略) 一回82(略) 93(略)

(筑前)

- 秋風故郷の山119 若き教盛810 大物の浦76 安宅の関74 羅生門69 大楠公66 小栗栖63 月に徳ぶ62 那須与市57 五条橋55 堅田落55 粟津の露54 阪崎出羽守53 西郷隆盛52 壇の浦51 茨木47 天の羽衣44 衣川44 禪師と正宗44 未練西行44 新撰組42 娘みゆき42 石童丸41 壺坂寺41 柳の精37 吉野山懐古36 白虎隊34 無情33 加茂の宵月33 お蝶夫人33 玉藻の前33 菅公32 龍の口32 橋中佐31 黒田武士31 迦羅の兜26 舞扇鶴ヶ岡24 戦艦大和23 北の庄22 木將軍22 二〇三高地22 仏御前22 姫ゆりの塔22 王昭君22 君ヶ代22 川中島21 千代の寿21 山吹の夢21 小督21 扇の的20 井伊大老20 中佐20 淀君20 坂本龍馬18 荒城月夜の曲15 義士の本懐14 巡礼お鶴14 本能寺14 太田道灌13 院の庄13 常陸丸13 石田三成12 田村邸12 源実

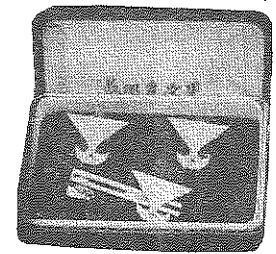
祝京絃創刊十五周年(二)

小林 喜夫

紙令ここに十有五年の京絃。格調ある紙面を提供して類勢にある琵琶界の孤壘を護りつづける京絃。数少ない機関紙として斯界の消息は勿論、世人への啓蒙乃至は同人間の交際いたるまで、伝承琵琶の道とともし灯を消さじとひたすらに吾が道を歩み続ける京絃の、真摯な姿に満腔の讃辞を呈して已みません。筆者は実技者でもなく只単なる琵琶愛好者の一人に過ぎませんが、世の風潮の変転まことに今日の如きはなく、この時流に処してわが琵琶界は如何に在るべきか、斜陽の関頭に立つ琵琶樂の今後進むべき方策等について、深慮すべき時機に立至っていると考え、これについて聊か私見を抱いている者であります(関連して京絃紙への希望、苦言まで)これは他日に譲ることとしまして、兎まれ困難な道を克服しつつたゆみなくこの長年月に亘り、京絃紙を発行し続けられる植村社主の並々ならぬ熱情に対し深い敬意を捧げつつ、此上益

琵琶撥型カフス釦、ネクタイ止め

琵琶人用カフス釦、ネクタイ止め新製品が出来ました。御希望の方は左記取扱者に御申込み下さい。(写真は薩摩系。筑前系は五絃用撥型)



- 東京都分寺市東元町三ノ三四ノ三 辻 靖 水 古 田 耕 水 原 田 梅 水 松 田 殊 水 水 藤 錦 種 輝 水 会 本 部 芸 の 友 社 新 井 潼 水 樋 口 冠 水 稲 葉 葵 水 馬 瀬 槍 水 和 田 才 一 郎 二 〇 一 号 植 村 莫 水

- ①カフス釦、ネクタイ止セット 表面に雅号金文字彫刻入 サック付 組 金千六百元
- ②カフス釦、ネクタイ止セット 彫刻なし サック付 一 組 金千参百元
- ③ネクタイ止 表面に雅号金文字彫刻入 ケース付 一 個 金 六百元
- ④ネクタイ止 彫刻なし ケース付 一 個 金 五百円

以上何れもロジュー(白金)鍍金完全仕上げ 販売期間 六月一日より九月末日限 雅号彫刻約二十日間 撥型バックル、婦人用帯止及びブローチ目下試作中(以上何れも送料実費御負担) 製造 元 東京工芸製品協会 東京都北区田端町一五三 電話(821)六六六一番

益の御発展をお祈りして祝詞に替えさせていただきます。(鳥取琵琶愛好者・号旭瑞)

歴史は絶えず 上 梨 将 水

春夏秋冬は永久に繰返される。その時代の出来事は有形無形のまま後世に継承されている。過去を振り返れば云い伝えられる伝説や実在の世相風俗、社界構成、総ての事が歴史として残っている。その歴史の一部を私達は琵琶歌にして演奏している。(中略)琵琶の機関紙等で時の出来事や我等の知らぬ古事が毎月或は二、三ヶ月毎に発表される中に、「京絃」が創刊十五年、百八十号という偉大な紙齢を重ね我等同好者に深い感銘を与えたが、同時にこの良き機関紙が幾星霜後の琵琶同好者に、又とない記録を残すであろう事は言を俟たない。編集氏の並々ならぬ努力に満腔の讃辞を贈りたい。今後一層内容充実に奮起し、後世に良き歴史の一ページを飾られたい。

向この機会に全国の同好者にお願したい、「京絃」の為に筆をとり良い記事を送って我等同好者の勉強になるよう協力して欲しいものである。(岐阜琵琶協会・名古屋一水会員)

京絃創刊 十五年
堂々編集 徵信念
平安徳昔 独自筆
斯界貢献 通積年 (在明石錦心流琵琶)

清水史水

井 上 兼 子

昔は人生五十年、その大凡三分の一の間一回の休刊もなく必ず月末には翌月号が手許に届きます。当然のように拝読して参りましたが、これが仲々の御努力であったことと今更ながら思い返しています。私は昭和三十一年十一月号から逐次揃えて今も座有に置き、繰返し拝読して居ります。「伝説をたづねて」、「琵琶交遷史」、「世紀の曙」、「目白女子大生遭難の歌」、特に広瀬織水先生の「京絃 頌見世評判記」は次号が待遠しく思いました。最近の内容については皆様既に御承知の事、兎や角申上げるのも駄目と存じ差控えますが、私の兄が「よもやま」欄を拝見して、琵琶が衰微したと云っても、この様に沢山の琵琶人が全国に居られるのだから、大したものだねと申して居ります。

とりとめもない事を思いつきまま書き記しましたが、最近紙質が殊に良くなりました。これは、内容の充実と相俟って誠に結構と存じます。益々御発展を祈り上げます。(京都琵琶同好会員)

祝詞と回想 生 重 定

「京絃」創刊以来十五年と云う歳月は決して短かかったとは云えないでしょう。それは琵琶に対する限りなき情熱なしては到底持続出来る道ではありませぬ。戦後文化という名の新しい時代を迎えて、総ての芸界は戦中の空白を埋めるに充分な発展を遂げた時、ひと

り琵琶界だけこの新時代の急テンポに立ちおくれた感はないでしょうか、何時の時代にも不変の完成された古典か、それとも時代の遷に巧く調子を合せて行けるものか、琵琶はその何れに属するものでしょうか。

今私達は多くの問題に直面して居り、その足もとにも亦多くの難関が横たわっているようです。「京絃」のこれからの道も決して担たるものではないと思えます。理想と現実と云う相反した二つの世界に、敢て厳しい道を選んで邁進せんとする「京絃」の健闘と発展を心からお祈り致します。

私が「京絃」の愛読者となったのは足立声光氏の紹介に依るものでした。その声光氏も昨年暮れ突然絃界を去られた、華やかな人生遍路の終着点程哀れを感じさせられるものはありません。声光氏は一代の琵琶人であったと同時に、また厳しい論客でもありました。確固たる裏づけを持ったその論評は単なる皮相的な空論でなく、風の如く、火の如き剣鋒は鋭く、その受太刀にこれつとめるのに忙がしいものがありました。厳しい芸界に於て、あの位の批判はむしろ当然と云えるでしょうが、一部の人間からはひどく嫌われたものです。舞台という戦場に於てその酷評に挑戦する者こそ、私達の期しているものです。然しその晩年は独り庭先の草花を相手にした悠々自適の余生であり、それは又孤高を待する者の辿る淋しい道であった様に思われます。(琵琶愛好家・東京)

田 中 篁 水

この度六月号を以て十五周年を迎え、紙齢百八十号を重ねられた事は誠に目出度く、心からお祝いを申し上げます。私は一、二他の機関紙と共に「京絃」も永年愛読させて頂いて居りますが、各紙それぞれの特徴が窺われ何れも興味深く読んで居ります。特に「京絃」は数少ない琵琶紙中の異色のもので、掲載記事は琵琶に直接関係の深いもの、又間接的に琵琶道に参考となるもの、其他琵琶行紀行文や各地演奏会記事等多彩で、流石は伝統を誇る古都が発行地だけに、流派を問わず多才の寄稿者を持つのが強味です。併しこれも主幹植村寛水師の機まぬ御努力の然らしむる処と存じ、今後益々お元気で紙面の刷新に意を用いられ、末永く続刊発展される様祈ってやみません。創刊十五周年記念に寄せて一言お祝の言葉と致します。(金沢一水会相談役)

蔵 本 司 水

(前略)さて早いもので「京絃」御発行十五周年を迎えられ、琵琶界のため御同慶に堪えませぬ。この間の御苦勞に対し深甚の敬意を表するものであります。(後略)(錦心流一水会神戸支部長)

創刊十五周年を迎え御祝申し上げます。月日の流れは早いもので、我等の芸友植村寛水師が、琵琶発展と同志親睦の為に「京絃」を

稲 葉 葵 水

高 橋 蘇 水

京絃の発刊十五周年百八十号を重ねた偉大な努力と功績に、衷心より感謝と感嘆の言葉を捧げます。

終戦後間もない世相尚混沌として物心共に收拾のつかない困難な時代から現在のマスコミ時代、確たる主義も主張もない刹那主義、誤れる自由主義の荒波を乗り越えて、益々意気旺んにして内容愈々充実せる京絃の存在は真に賞讃の外なく、その貢献や偉大と云わざるを得ない。勝手気儘な好ききらいとか、好意或は反感によってくだらぬ批評はあるであらう。然し一行一句もゆるがせにしない、かくも良識的な刊行物は、そうザラにはあるまい。私には欠かせない研究資料として深い愛着を持っている。

京絃の更に発展されることを希い、併せて琵琶を愛し琵琶の発展に献身する主幹植村寛水氏の御健闘を祈って祝詞とします。(函館錦心流琵琶演奏家)

都 錦 穂

創刊十五周年お目出とう御座います。一口に十五年と申しますが大変な御努力、けわしい茨の道であつたろうと思えます。邦楽でも琵琶は近年復興調とは申せ、昔の黄金時代とは違い現代に取組む事は琵琶人始め機関紙にたづさわる先生方も並大低ではないと存じます。どうぞ今後共一層の御活躍御発展を御祈りしてお祝の言葉といたします。

花咲きて葉となり実をなせし京絃誌 (以下 次 号) (東京錦心流琵琶演奏家)

伊 藤 鮭 水 氏 銚路市幸町六の伊藤鮭

の亡夫人供養水(富士一)さんは昨年十一月、二十一年間苦楽を共にした愛妻豊さんを亡くした。「妻には苦勞のかけっぱなし何とか心のこもった供養をしてやりたい」と考えた末、郷里秋田県八郎崎の菩提寺清源寺で黄恩衣の報謝を思いついた。子供に恵まれなかつた伊藤さんにとって豊さんの死は大きな悲しみだったが最高の供養をする事で取直し四ヶ月目の去る三月六日京都から届いた黄恩衣が伊藤さん宅に集つた近親者に披露され錦心流琵琶の総伝を極めた伊藤さんの琵琶を抱いた法衣姿に一同をほろりとさせた(後略)一三月十一日朝路新聞から一

速見是水女史 錦心流一水会大阪支部で
 歓迎茶話会は四月二十四日大阪府立労働会館に於て有志相集まり久し振りに来阪の速見是水女史並に同門下堂冷水、高尾流水のお三名を迎えて首記が催され左の演奏が展開された。吉野山懐古、松岡槍月、松馬瀬、松狩、植田豊水、松田中、重衡、堂冷水、松速見、送別、高尾流水、松速見、戸隠山、木村蓮水、湖水乗切、藤原英水、小栗栖、田中敷水、舟弁慶、馬瀬槍水、勸哭の涙、速見是水。特に速見水史の演奏は永年の練磨による至芸の渋味と鮮かな撥刺きは堂々たる気魄を示し一同に深い感銘を与えた。

支部員の外野尻根水、中西戎水両氏並に神戸支部三浦蓮水女史と同門下反町紫水氏等同席左の通り順演したが、浅野師の「天目山」は四十五分の長篇を十五分に纏めて師独特の名調特に明快な発声と胸打つ気魄で満堂を圧し高い格調を示された。城山、松岡槍月、勸哭の海、松原龍山、小栗栖、田中敷水、石童丸、小川吟水、白虎隊、木村蓮水、詩吟金州城、米沢聊水、龍の口、尾山好水、勿来の関、番匠落水、白虎隊、植田豊水、重衡、藤原英水、勸進帳、野尻根水、詩吟常盤雪行、反町紫水、同滝山城跡、菊地庸子、天目山、浅野晴風。

錦晨、徳武近水、押川旭葉、若宮旭登、鈴木鶴、広田緑水、柿本錦城、藤波白林、村木桜柳、望月啞江、西郷天風、鈴木密水の二十五氏が熱演して閉会。(出席者)筑前橋会山崎旭華師以下十名、同旭会吉田旭明師外四名、薩摩四名、錦心流二十六名、錦びわ四名、一般同好者守口デレクターを含む七名、以下五十六名

横山岳玲氏 薩摩琵琶北海道の雄横山岳
 歓迎晩餐会 玲氏が六月一日京都琵琶協会の演奏会に出演のため五月三十一日入洛されたので同夕平井春嶺氏宅に伊吹正陽、田中鷗水、古谷寛水、平井春嶺、植村真水、大阪岡部錦蝶、山之内兼光、杉本治作の諸氏並に詩吟の小磯実翁氏が参集して歓迎晩餐会を開催し、浅野の傾けながら弾交歓談の意義ある一夕を過ごした。

中部芸能タイムズ社 西脇和義氏主宰の同
 関西総局開設 社舎坂本塾を名古屋から大阪東区南久宝寺町二ノ五六竹田ビル六〇三号室に移して関西総局を開設し、関東、中部の外関西地方芸能界の消息誌として活躍される事となった。

武絃会第七 五月十八日午後一時東京都
 十回研修会 小金井市福祉会館で開催。白虎隊、吳究静軒、松狩、村上清華、屋島の普一、五十嵐清芳、静、渡辺喜山、山科の別れ、加藤喜水、羅生門、高杉洲晴、彰義隊、清水源城、台湾入、大村鼓城、吉野落、土田昇龍、茨木、伊藤馨水、以上熱演六時閉会した。

京都琵琶協会の
 春季演奏会 六月一日(日)十一時半から於て上記演奏会開催。新緑すがすがしく、天雲なき上天気恵まれて開会一時間も前から賑々大阪から来たという数氏の熱心な聴客に続いて程なく廊下に溢れる超満員の盛況を呈し係員は「どうぞお話合せを」と何回も会場整理をしつつ札幌、静岡、福井、大阪、京都の五来賓出演を始め協会員やその門下の熱演に次ぐ熱演で彌が上にも琵琶会ムードを盛り上げ一曲毎に割れんばかりの拍手が堂を圧

一水会大阪支部定時総会と 四月二十七日
 浅野晴風師歓迎会 日首記開催、左記議案を附議し満場一致で可決した。①四十三年度事業報告 ②同会計報告 ③四十四年度事業予算 ④役員改選(全員留任) ⑤支部長馬瀬槍水 副支部長田中敷水 理事木村蓮水 同小川吟水 同藤原英水 同尾山好水 顧問桃木耳水 同東憲水。

日本琵琶振興会 五月二十五日午後一時
 五月例会 から東京新宿駅前歌舞練場で開催、生憎の風雨にも拘らず定刻既に十八名の会員が出席し夕刻には五十六名を算して関係者を喜ばせた。舞台正面に西郷天風師の筆になる美人画をかかげ山崎光水、野村旭、山本隆水、佐藤旭天紅、吉川城水、木下旭龍、山本岳盛、井坂旭良、箕村桜州、齋藤星苑、佐藤源水、添野城真、田中旭公、大森

京都琵琶協会の
 夏季演奏会 六月一日(日)十一時半から於て上記演奏会開催。新緑すがすがしく、天雲なき上天気恵まれて開会一時間も前から賑々大阪から来たという数氏の熱心な聴客に続いて程なく廊下に溢れる超満員の盛況を呈し係員は「どうぞお話合せを」と何回も会場整理をしつつ札幌、静岡、福井、大阪、京都の五来賓出演を始め協会員やその門下の熱演に次ぐ熱演で彌が上にも琵琶会ムードを盛り上げ一曲毎に割れんばかりの拍手が堂を圧

して七時予定の全演奏を終了、十数通の祝電披露、記念撮影に引続いて五十数名の懇親宴を張り自己紹介や芸談に花を咲かせ最後に横山岳玲氏の音頭で協会の萬歳を三唱して八時半日度閉会した。(出演者と曲目別項「よもやま」欄参照)

錦心流一水会大阪支部 本年度才一回研修
 部研修会と年度計画 会を六月一日大阪府立労働会館で開催、馬瀬支部長より所界の動静に付報告並に今後の支部行事計画を協議の結果①梅組桜組の各研修小演奏会を隔月開催、差し当って来る七月十三日当労働会館ホールで梅組演奏会決定、②今夏のゆかた会開催、③秋季大会開催、④今秋の一水会全国大会に支部代表として小川吟水氏出演決定。続いて支部後援者で今回奥伝免許の松原絹水(龍山)氏の披露があり全員拍手入会承認。当日の研修演奏次の通り。淀君、田中敷水、重衡、中山鳳水、噺川中島、飯塚根水、会津白虎隊、古田東水、松の廊下、中西鏡水、湖水乗切、尾山好水、龍の口、植田豊水、勸哭の海、小川吟水、羅生門、藤原英水、恩誓の彼方へ、木村蓮水、川中島、番匠落水、小督、馬瀬槍水

(訂正)
 前号才六頁「祝京絃創刊十五周年」田中歴史は田中歴水氏の誤植、お詫して訂正
 (予告)
 京都琵琶協会七月定例茶話会 七月六日(日)午後一時千本出水西入徳雲寺(当番幹事 中島真水、梅原旭壽両氏)同好者の御来遊歓迎
 祇園会八坂神社奉納演奏会 七月二十三日(水)午後六時同神社拜殿(主催京都琵琶協会)

録の木、細田辰水、扇の的、高橋頂水、河
 中島、橋本彼水、未練西行、田添旭雪、松
 の間、川村高水、曲垣平九郎、田中愛水、
 彰義隊、山崎岳登、村上喜郎、長南旭秀、
 本能寺、戸田領水、天野屋利兵衛、蛭川狗
 水、川中島、田中歴水、乃木将軍、津田霜
 声、龍の口、金沢水谷充水、坂崎出羽守、
 同田中歴水、新撰組、福井吉野洲水、白虎
 隊、大阪米沢瑠水、木村重成、埼玉石坂南
 水、西郷隆盛、東京友吉澄水
 京神田岩波ホール(主催同氏)茨木、柿木
 昌水、扇の的、川上秀水、木村重成、大森
 和水、七尾城、会田映水、本能寺、加藤喜
 水、桐一葉、小嶺娘水、父乃木将軍、長野
 水、龍の口、野池信水、天目山、吉田硬
 水、湖水渡、小林了水、九条武子、太白詩
 水、松の間、加藤斐水、城山、筒井秀水
 川中島、安藤敬水、阿波の鳴戸、北沢来水
 恩誓の彼方へ、榎本芝水、随談天と地と、
 心水石黒敬七

よもやま (敬称略)

○：正絃会五月演奏会 五月十八日昼東京港
 区芝愛宕山菜根(主催薩摩琵琶正絃会)
 菅公、須田岳誠、忠度、新納岳窓、物狂、
 鈴木鶴岡、木崎原、池野谷吟岫、小督、
 柏木篤道、鉢の木、遠藤鶴東、旅順開城、
 栗原雨竹、野田の笛、鈴木鶴謳、錦の御旗、
 岡尾鶴城、俊寛、吉成登城、薄陽江、
 森鶴堂、城山、辻靖剛、桶狭間、横山岳玲、
 広瀬中佐、古家絃風、桜、仲川秀邦、彰義
 隊、伴野鶴風、小敦盛、関口龍城、本能
 寺、石黒錦歌、古曲合奏、有志

○：錦心流水会昇任披露会 五月二十五日
 昼大阪南区自安寺新館ホール(主催広瀬織
 水氏)吉野山懐古、橋口薩水、七郷落、
 平岡克水、白虎隊、稲葉卓水、討入、近藤
 登水、児島高徳、中野淀水、井伊大老、杭
 東詠水、母堂盛、藤沢眉水、常陸丸、浜野
 治水、吉野落、森中志水、松の廊下、中
 西鏡水、俊寛、井辻葵水、城山、広瀬頭
 水、景清、広瀬織水、本能寺、名古屋、阿
 部勝水、敦盛、京都木下豊水、父乃木将軍
 大和懐古、神戶蔵本司水、新撰組、福井吉
 野洲水、忠度都落、京都栗本天芳、渡守甚
 兵衛、東京西村錦風、曲垣平九郎、東京新
 部桜水

(転居)

松田静水氏 東京都大田区南千束三丁目一七ノ一二(電話727七〇七番)

○：才三回錦心流大会 五月十八日昼富山丸
 の内会館(主催一水会富山支部)常陸丸、
 市井頌芳、城山、会田頌映、吉野懐古、野
 尻頌苑、松狩、加藤頌風、大楠公、上田利
 明、石童丸、森麒麟水、台湾入、石瀬霜風